



TITLE:

表紙・編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記ほか. 宗教学研究室紀要 2006, 3: 53-55

ISSUE DATE:

2006-08

URL:

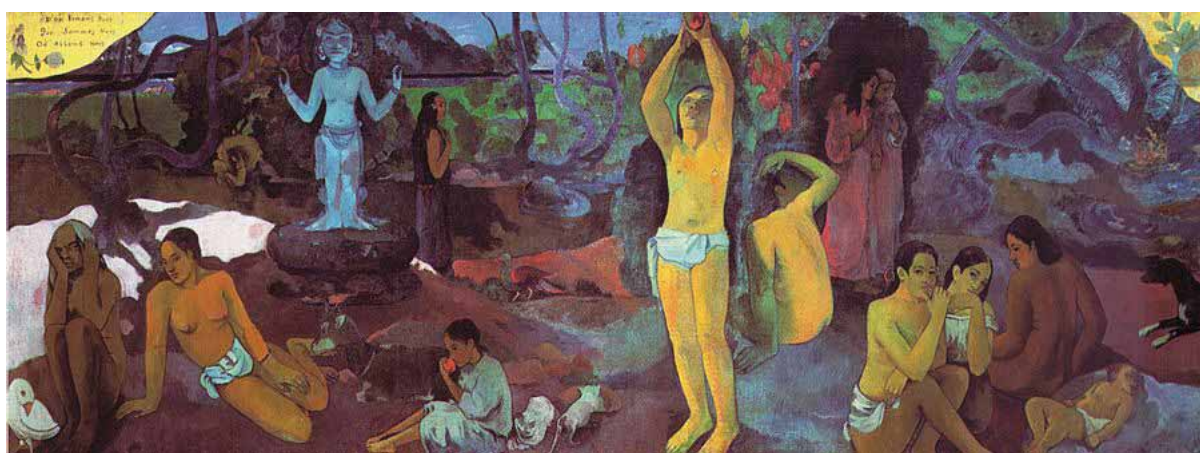
<http://hdl.handle.net/2433/57731>

RIGHT:

ISSN 1880-1900

宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2006 vol.3

京都大学文学研究科宗教学専修編

第3号 (2006年) 目次

ナベールの自我はいかに証しされるか 証言の解釈学に向かって	……………	杉村 靖彦 (2)
エックハルトにおける愛の概念について アリストテレスの友愛論を手がかりに	……………	加藤 希理子 (18)
宗教間対話とポストリベラル神学を巡って	……………	長谷川 琢哉 (28)
<書評> 佐藤卓巳著『八月十五日の神話 終戦記念日のメディア学』 ラジオと、〈参加〉の記憶	……………	川口 茂雄 (42)

第3号執筆者紹介

杉村 靖彦	京都大学大学院助教授
加藤 希理子	京都大学大学院博士課程
長谷川 琢哉	京都大学大学院博士課程
川口 茂雄	東京大学特別研究員

(掲載順)

****編集後記****

このたび「宗教学研究室紀要」第三号を発行することとなりました。今号では三篇の研究論文および、一篇の書評を掲載しています。執筆者各位のご関心のもと、さまざまな論考がお寄せ頂けましたことに、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

さて本研究室紀要は、かならずしも従来の研究スタイルにとらわれることなく、宗教哲学のアクチュアルな可能性を自由に探究する場所として設けられたものです。それゆえ内容的にも形式的にも、多様な試みが可能であり、また要求されてもいます。今号に掲載されました杉村助教授のご論文からも窺えますように、現代においては「哲学」にしる「宗教」にしる、それを語るための確固とした場所など存在しそうにありません。そうである限り、宗教哲学に関わる研究者はそれぞれが手探りで考察を行なう以外にないでしょう。次号以降も、多くのご寄稿が頂けますよう切に願う次第です。

(長谷川琢哉記)

宗教学研究室紀要(京都大学文学研究科宗教学専修編)

2006年8月発行

Articles

L'auto-attestation du moi nabertien : vers quel témoignage ?

.....SUGIMURA Yasuhiko (2)

Love in Eckhart – through Aristotle's theory of friendship

.....KATO Kiriko (18)

Interfaith dialogue and Postliberal Theology

.....HASEGAWA Takuya (28)

Book Review : Sato Takumi, *Myth of the 8.15 – A mediological study on “anniversary of the end of the War”*

.....KAWAGUCHI Shigeo (42)